＜2024 年 5 月 21 日:「昭島のオオタカと環境を守る会」記者会見、寺西俊一コメント＞

私のほうから、最後のまとめに代える形で、一言コメントしたいと思います。

ご紹介の通り、私はいま、「日本環境会議」(Japan Environmental Council: JEC)という、自然科学・社会科学・人文科学を含む専門的な研究者、医師・弁護士・ジャーナリスト等の専門家、そして、いろいろな市民活動の中心メンバーなどが会員となっている、学際的なネットワーク組織の理事長を務めております。この組織は、1979 年 6 月に発足して以来、45 年目を迎えているという歴史的実績をもっています。10 年ほど前から私が 3 代目の理事長になっています。

さて、私自身の専門は、「環境経済学」という分野です。これは、1980 年度から一橋大学に日本で初めて設置された専門講座です。当時、私がたまたま一橋大学大学院博士課程を修了したばかりで、各種の公害・環境問題に係わって研究していたことから、私がこの最初の専任担当者になりました。それから 36 年間、「環境経済学」および「環境政策」に関する専門講義を担当してきました。以下、こうした「環境経済学」の分野からみて、今回の「GLP昭島開発プロジェクト」をどのように考えたらよいか、簡単にコメントしておきます。

まず、「環境経済学」というのは、国際的な学会でもそうですし、日本の学会でもそうですが、経済学の一分野ですから、ある開発行為ないし開発計画が「経済や社会に対してどのようなプラスとマイナスをもたらすか？」ということを科学的に分析する、そういう学問です。改めて指摘するまでもないですが、いかなる開発行為ないし開発計画も、必ず、何らかの形で環境に対する様々な影響をもたらします。今回の「GLP昭島プロジェクト」は、巨大物流倉庫とデータセンターを、市街地における貴重な緑地を削って建設するという計画ですから、この建設工事期間を含め、新たな交通渋滞、騒音、大気汚染などの諸問題が引き起こされます。また、高さ 50 メートルを超える巨大な物流倉庫が3棟、さらには 8 棟ものデータセンターが建設される計画ですから、この開発地域における緑地帯としての従来からの景観が大きく損なわれます。そして、本日の記者会見の焦点となっているオオタカの営巣地も深刻な影響を受け、貴重な生物多様性が失われてしまう危険性が極めて高いことが懸念されるわけです。

では、このプロジェクトによるプラスとマイナスを客観的に評価した場合、この開発は果たして是認されるものかどうか、そういう観点で判定しますと、どう考えても、これはイエスの判定を出すことができません。もし点数をつけるならば、このプロジェクトは明らかにマイナス点になります。零点以下ですね。私は、これまで 40 年近くにわたり、国内外での大小様々な開発プロジェクトを見てきましたが、それらのなかでも、最もお粗末にすぎる開発計画だと思います。

まず、この開発プロジェクトが周辺の地域社会にとって、どのようなプラスをもたらすものか、まったく明らかではありません。確かに「物流倉庫」が必要だとか、あるいは「データセンター」が必要だというのは、一般論としては理解できますが、では、そもそも昭島のあの地域に、なぜ 3 棟もの巨大物流倉庫が必要なのか、そして 8 棟ものデータセンターが必要なのか、まったく明らかではないわけです。とくに巨大な物流倉庫に関していえば、周辺の脆弱なアクセス道路との関係からみて、仮に 3 棟が建設されたとしても、おそらく十分には機能しないのではないでしょうか。この点については、物流や交通分野の専門家の方に、是非、率直なご意見を伺いたいと思います。この点を含めて、あまりにも杜撰な計画であり、「机上の空論」のような絵が描かれている。そして一方で、こうした杜撰な開発計画によって「失われるもの」(各種の「損失」)があまりにも大きいといわなくてはなりません。

なお、開発計画のプラスとマイナスを客観的に評価するという「環境経済学」の分野における社会的な「費用便益分析」の考え方に基づけば、この「失われるもの」（各種の「損失」）のなかでも「絶対的損失」と呼ばれるものについては、とくに重要視する必要があります。つまり、「一旦失われたら元へと戻すことができないという損失」についてです。本日の記者会見での焦点であるオオタカの営巣がもし失われてしまえば、これを元に戻すことは不可能でしょう。そのほかアナグマなどの棲息についても同じです。さらには、先ほど長谷川博之さんがご指摘されたように、戦後、あの地域がたまたまゴルフ場として囲まれてきたおかげで、自然がそれなりに再生され戻ってきているわけですね。まさに今回の開発地である「昭和の森」は、いま国際的に共通課題となっている「ネイチャー・ポジティブ（自然再興）」の貴重な現場そのものです。しかも「水と緑の豊かさ」や「平穏な暮らし」を魅力として打ち出している昭島市の住宅市街地の一番重要なところです。そこを直撃して破壊する開発計画になっています。このような計画は、どう考えても、プラス評価ができません。むしろ、きわめて酷いマイナス評価の計画です。これを、日本 GLP という世界的な企業が堂々と推し進めているのは信じがたいことです。しかも、この日本GLPは、「サスティナビリティー」を主軸にした経営を考えていますと自己宣伝しています。また、生物多様性保全を含めた SDGs を実践する企業だということも謳っているわけですね。それくらいの自負がある企業ならば、この開発計画は即刻、全面的に見直して当然でしょう。少なくとも、前述したような「絶対的損失」を引き起こさないかたちでの全面的な練り直しをすべきであり、それが無理ならば、潔く撤回すべきですね。

以上、昭島在住の一人として、また、この開発予定の現地も視察したうえでの一専門家としての率直なコメントです。

（注：過日の記者会見での寺西発言をもとに、多少の補正を加えたものです。）

～～～